



1学期の学校運営へのご協力、ありがとうございました

- 新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、4年ぶりに「制限のない学校生活」が可能になった1学期でした。子どもたちの豊かな学びの体験が戻ってきました。1学期に実施した教育活動について、それぞれの成果を上げられたことを、とてもうれしく思います。「げに生々と常に明るし」の校歌の一節のとおり、生き生きとした子どもたちの活動が日々生み出され、活力のある1学期になりました。これもひとえに、保護者・地域の皆様に本校教育への多大なるご理解とご協力をいただいたからこそです。心より感謝申し上げます。
- 先週、1年生教室で「1がっきがんばりました会」の様子を目にしました。教室の前には、たった一人で鍵盤ハーモニカの演奏を発表している子がいました。それを聞いている他の子たちは静かに、その演奏の成功を祈るように見つめています。ふと、入学してきた4月の1年生の姿を思い、この様子と比べました。「よくぞここまで」と、その成長の大きさを実感しました。
- 一日一日の子どもたちの変化は、目に見えないほど小さなものかもしれませんが、1学期というスパンで見たとき、ひとりひとりの子どもには必ずそれぞれの成長が見つけられます。形に現れ、目に見えるような成長はもちろん、目に見えないような形でのゆっくりとした成長もあったことでしょう。
- 子どもたちが「のびしろしかない」成長過程にあることをふまえ、まずは1学期の子どもの成長を見つけ、ともに喜んでやってください。子ども自身に「成長を自覚させる」ことは親や教師の大きな役割です。子どもは「がんばった気持ちになる」「成長したことがわかる」ことで、ますますやる気になります。「成長の自覚と納得」が次に進むエネルギーになるのです。その上で、これからの「のびしろ」の開拓に向けて、適切に支援していきましょう。
- 明日、「あゆみ」をお渡しますが、「あゆみ」に対する本当のねうちは、むしろお家の方からの言葉かけひとつで大きく変わってくるものだと思います。どうかご家庭でも、よりいっそう子どもの励みとなる言葉かけをしていただきますよう、お願いします。
- さて、いよいよ夏休みを迎えます。今年の夏休みは35日間あります。ご家庭では、子どもの自立・自律の力を養う絶好の機会となります。親子のコミュニケーションをしっかりととりながら、子どもの自己決定と、それに基づく主体的な生活を支援していただきたいです。チャイムも時間割もない（自由な）時間は、まさに「自分は自分を創っていく責任者」としての実践の場になると考えます。感染症予防や熱中症予防を継続し、健康第一に過ごすとともに、ぜひとも子どもたちにとって「よろこびの生まれる夏」になることを願っています。



8月の行事予定

8日 (金) 山の日	25日 (金) 2学期始業式 一斉下校 11:30
14日 (月) 教職員等が一斉に年休等を取得する日 同窓会総会 希望の塔開扉式	28日 (月) 3校時授業 一斉下校 11:30
15日 (火) 教職員等が一斉に年休等を取得する日	29日 (火) 給食開始 一斉下校 13:30
19日 (土) CS学校整備作業 養父市陸上競技大会	30日 (水) お話広場(低) 但農給食4校時
20日 (日) PTA奉仕作業 PTCAフォーラム)	

「そうあんくんお手伝い大作戦」の取組について

1学期中は「そうあんくんの日」における積極的な取組、本当にありがとうございました。毎回「そうあんくんカード」に記されている子どもたちと保護者の皆様の感想を読むたびに、ご家庭でその意義をしっかりと理解し、実践してくださっていることが伝わってきます。

夏休みには「そうあんくんお手伝い大作戦」を実行します。毎日コツコツ続けたり、地域の行事や地区の仕事を手伝ったりと、この時期にしか体験できないことに挑戦してみてください。働く体験から新しい自分や家族・地域の良さを発見できる、そんな夏休みをつくっていただけるように願います。ご家族のみなさま、地域のみなさま、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

- 100ポイント（お手伝い超人）をめざしましょう。
- お手伝いをしたら、働いたポイントの数だけ色をぬりましょう。
- 表にないお手伝いは、家族や地域の方と相談して内容やポイントを決めましょう。地域でのボランティアや奉仕作業などに参加して、もらったポイントもOKです。
- 100ポイントをこえたら新しいカードを準備しています。校長室まで取りに来てください。
- 100ポイント達成者には校長より「お手伝い超人認定証」を渡します。

■ 教職員が一斉に年次休暇等を取得する日について

8月14日（月）、15日（火）の2日間を本校の教職員が一斉に年次休暇等を取得する日としています。この日、学校との連絡が必要な場合は、養父市教育委員会こども学び課（Tel：664-1627）まで連絡してください。（受付：午前8時30分から午後5時15分）

■ A L T マディ先生が帰国します

1年8ヶ月間、本校の子どもたちに英語を教えていたマディ先生が、このたび母国のオーストラリアに帰国します。授業だけでなく、休み時間に子どもたちと遊んだりクラブ活動も指導したりと、幅広く子どもたちとふれあいました。マディ先生は自分の夢に向かって新しい一歩を踏み出します。これからの活躍を願うばかりです。2学期からは新しいA L Tが着任します。



マディ先生6年生での最後の授業

【創立150周年・八鹿小学校教育の中にある心】（1）「亦透」



“またとおる”と読みます。この扁額は本校所蔵の中でも最古のもので、明治12年、当時の宮内大輔（くないたいふ）だった杉孫七郎という方によって書かれています。「亦透」は現在、八鹿小学校の校訓となっています。また、毎年発刊している八鹿小学校研究紀要のタイトルとして長年採用されています。

「亦透」は、池田草庵先生が門弟たちに教えた朱子学の中にある「^{ようき}陽気を発する^{はつ}処、^{ところ}金石も亦透^{またとお}る」という言葉に由来するものです。“精神を集中して物事を行えば、どんな困難にも打ち勝つことができる”という意味だそうです。「亦透」と響き合うように、東井義雄先生は後に子どもたちにこんな言葉を残されています。

一つの所に力を集めてがんばることを「一所懸命」という
 指の先の小さい力でも 針の先の一点に集まると 固いものを貫く力になる
 君の力を一点に集中してがんばれば どんなことだってできる

本校には150周年に渡る教育の中で、子どもたちに伝えるべきものとして大切にされてきた言葉や教え、考え方が数多く残されています。本誌面では、何回かに渡り、本校の「心」をお伝えしていきます。